

ふるさと Something NEWS

第7回

北へ、南へ、日本国へ ——(その三) 鶴岡の旅

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤 建吉

▼郷里・鶴岡に19年

鶴岡は筆者の故郷、生まれの街である。正直に言えば、生まれたのは、鶴岡市関根という山間部で、小学校は田川小学校、関根分校であった。1年から4年生までで、5年になると、2クラスの本校に通った。中学校は、持ち上がりで田川中学校に通った。

中学3年生の2月に、母親が胃癌で亡くなり、高校入試、さらに生家が国道整備により代替の鶴岡の新興住宅地に引っ越した。高校3年生の4月には、療養中の父親が病死し、立て続いて人生の

▼ふるさとの情景

この間、郵便局や農機具会社、新聞配達、さらに、地元のお店の鰻割烹で出前のアルバイトなどを通じて鶴岡の街を、千葉県と東京都で通った。故郷の情景は、このコラムの第1回で記したように、「故郷は遠きに思うもの」であり、それは天も地も一体となった感慨に他ならない。

その思い出の一端を記すと、新潟地震(昭和39年6月16日)を中学のときに体験した。教室の机が左隅の方にベクトル移動した。老舗鰻割烹「長山亭」での出前のアルバイトは、いま思うと、市内の風間家はじめ旧家の

意識した先端技術研究所を慶応義塾大学先端技術研究所の入口で富樫氏



定され、世界発信をしている。2016年には、山岳修験道の聖地である出羽三山が、日本遺産に選定された。その端緒は、旧庄内藩主が肝いりで創始した「松ヶ丘開墾場」である。明治5年(1871年)、旧庄内藩士約3000人が、刀を鎌に持ちかえ、わずか2カ月で百町歩(約1000畝)の原生林を開墾した。明治7年には300畝以上の桑園が完成し、明治8、10年には3階建の大蚕室10棟が建設された。蚕種から絹織物の製品化まで一貫した工程がこの地に出来た。鶴岡は、絹織物の主力地となった。

▼藤沢周平の貢献

鶴岡市は、既述のように著名な文学者を輩出している。なかでも藤沢周平は、鶴岡をブラスイメージとして周知した。作品に登場する海坂藩は庄内藩がモデルのようだが、「海坂」は、俳句集の名前に由来するというのが一般であるが、その名前の愛着は、藤沢の生地との関りによると思う。

ロングテールの人気を維持しているのは、西郷どんも同様である。庄内にも作品にも魅力と革新的な活動も貢献している。筆者は、新しく西郷どんの関りを今回の旅で初めて知った。熊本藩の加藤清正の墓所が藤沢周平の生地近く曹洞宗天澤寺にあったのだ。しかも、西郷どんが庄内征伐の折に参拝したという。本堂には、その清正所縁の虎の書画が掲示されている。

西郷隆盛と庄内藩中老・菅実秀は、「西郷どん」「菅はん」と呼ばれているが、菅は、菅原道真の子孫であり、鶴岡天神祭の所縁ともなっている。真の子の子孫であり、鶴岡天神祭の所縁ともなっている。

庄内映画村資料館として利用されている明治創建の蚕室



いずれ、詳しく筆者の人生を振り返る機会があると思うが、今回は、ほぼ19年暮らした郷里・鶴岡の旅について記す。

▼鶴岡と庄内映画村

鶴岡市の前市長は田川中学校の先輩であったが、2年前に40歳代の皆川治市長が誕生し、若い気風が生まれている。2018年には、前市長の事業としての鶴岡市文化会館「荘銀タクト」が完成し話題となった。その地は、庄内藩校・致道館や慶応義塾大学の研究施設があり、城址公園にある。また、最新の話題には、水田にキッズドーム「ソライ」が出来たことがある。

これより先、2014年12月に、鶴岡市がユネスコ食文化創造都市に認定された。資料館から数キロ先には、100畝の映画

連載3